

第2回群馬県世界遺産専門委員会 議事録（概要）

日時：平成27年8月3日（月）13：30～

場所：群馬会館 第1会議室

1. 開会
2. 挨拶 笠原企画部長
3. 委嘱状交付
4. 委員長選出

委員長・副委員長を以下のとおり選出した。

委員長 ^{かりや} 荻谷 ^{ゆうが} 勇雅 日本イコモス国内委員会副委員長

副委員長 ^{おかだ} 岡田 ^{やすよし} 保良 国士舘大学（イラク古代文化研究所）教授
文化庁世界文化遺産特別委員会委員

5. 議事

（1）報告事項

①平成26年度モニタリング調査について

■委員からの主な意見

- ・世界遺産の推薦書作成時には、必要最低限の調査研究しかできなかったため、また掘り下げていって、新しい価値を加えて伝達することが必要。
- ・モニタリングの調査結果についてはできるだけ公表してほしい。また、少なくともこの委員会にはデータの詳細がわかるようにしてもらうことを希望する。
- ・今回は1年目であるが、年数を重ねた後に別途作業が必要になる。モニタリング結果を判断するのがこの委員会であるなら、協議事項とすべき。
- ・モニタリング調査の結果をこの委員会に報告、評価、場合によっては了承とするなどの評価システムを考えておいた方がよい。

②包括的保存管理計画概要版の作成について（意見無し）

（2）協議事項

①シリアル型世界遺産としての価値伝達における県の役割について

■委員からの主な意見

- ・世界遺産センターについて、石見銀山では運営は県と市が共同でやっている例もある。場所については富岡のまちづくりに資するようところがよい。

②地域住民向け啓発資料について

■委員からの主な意見

- ・緩衝地帯の保全が大切ということを統一的に訴えるものが必要。表紙に緩衝地帯という言葉を入れるなど内容を工夫しないと伝わらない。
 - ・住民に個別に知ってもらいたいことは数多くあるが、それらを束ねるものとしてはよいのではないか。
 - ・京都市の景観計画は世界遺産のことが明記されている。この資料はもう少し住民目線で表記を検討した方がよい。
- （以上）